

募金期間： 2015年4月28日～9月30日 募金件数： 4,335件 募金額： 101,058,387円

4月25日(土)、現地時間11:56(日本時間15:11)、首都カトマンズの北西約80 kmを震源に、マグニチュード7.8の大地震が発生しました。

この地震により、死者約9,000人、家屋の全壊約60万棟以上、ネパール総人口の約3割に当たる810万人が被災しました(8月20日時点)。ユニセフによると95万人以上の子どもたちが緊急支援が必要となりました。

ワールド・ビジョン・ジャパンは、多くの皆さまから募金をいただき、世界のワールド・ビジョン事務所とともに、支援を届けることができています。ここに感謝とともに、報告をさせていただきます。



大地震で破壊された家屋

### 支援活動内容(9月29日現在)

支援対象地域:カトマンズ、甚大な被害が出たバクタプルやラムジュン、ラリトプル等(裏面地図参照)

支援対象人数:211,586人

### 生活物資の支援

- ブルーシート30,067枚、屋根材88,576枚、就寝用マット26,018枚、毛布27,303枚、食料1,607家族分、蚊帳、台所キット等を支援しました

### 安全に過ごせる場所の提供

- 子どもたちが安全かつ自由に遊べる場所「チャイルド・フレンドリー・スペース」を35カ所に設置し、3,535人を超える子どもたちが利用し、活動を終了しました。また、女性や思春期の子どもたちが安全に過ごせるスペースを21カ所に設置し、619人を超える人々が利用しました

### 仮校舎の設置

- 54カ所に仮設校舎を設置。現在8,200人近くの子どもたちが勉強を続けています

### 生活再建支援

- 生活再建の一環として、条件付き現金給付(一世帯当たり75ドル)を、被災したバクタプールの脆弱な1,505世帯に支援しました
- また、ガレキを活用した建物の再建作業に参加する代わりに賃金を支払うという仕組みで、被災者に現金収入が生まれるよう、シンドゥリ郡の13,198世帯(各世帯80ドル)を対象に支援を行いました



生活再建の一環として、現金給付を受け取る女性と、受け渡しのデスク

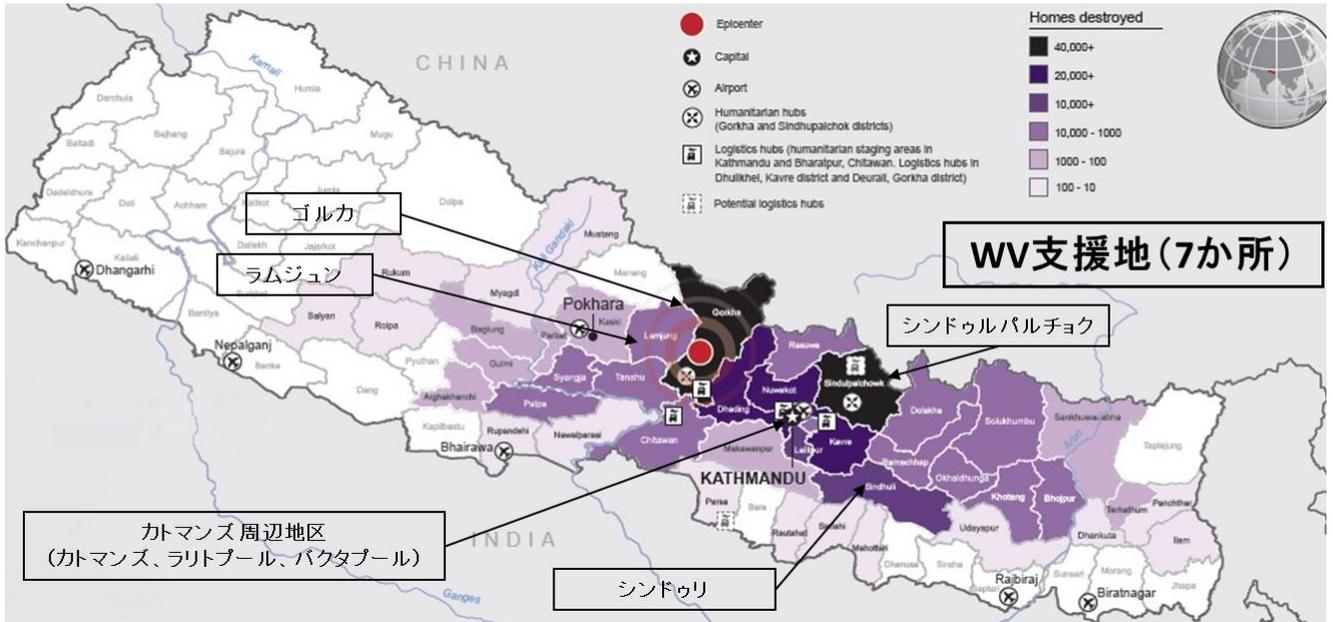


チャイルド・フレンドリー・スペースで過ごす子どもたち

## 水供給・衛生環境の改善支援

- 安全な水供給のために5つの給水システムを修復し、300世帯が使用できるようになりました。また152世帯にトイレを設置しました

支援活動は、被災地域の人びとを対象に支援方法に関する説明会を開催し、意見箱を7カ所に設置したりするなど、被災者からの意見を吸い上げる仕組みも作り、より人々のニーズに沿った形で実施しています。ワールド・ビジョンはこれからも、復興までの長い道のりを、ネパールの人々とともに歩みます。皆さまからいただいた募金は今後の復興支援のためにも引き続き使わせていただきます。



### 支援を受けたスシーラさんの声

「すべてを失ったけど、一番大切なものは残りました」

14歳のスシーラさんは、地震が起きた時、家から1時間ほど離れた草地にいました。大きな揺れを感じ、走って家に戻ったスシーラさん。「お母さんと呼んでも返事がなくて、恐怖を感じました。崩れた家の中に取り残されていると思いました」幸運にも、お母さんは無事でした。細々と暮らしていた生活は、地震後、より困難になりました。家を失ったスシーラさんは、「我が家で過ごした時間のすべてが恋しい」と語りました。支援物資が届き始め、一家は、防水シートやタンで雨風をしのげる仮設住居を建てることができました。「すべてを失ったけれど、一番大切なものは残りました。それは、家族です」目の前にはまだ不確かな状況が広がっているものの、スシーラさんはより良い未来が待っていることを信じています。



スシーラさん(右)とお母さん

### 募金についての問い合わせは

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F

電話 03-5334-5351 FAX 03-5334-5359 E-メール [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp) <https://www.worldvision.jp/>

ワールド・ビジョンは、キリスト教精神に基づいて開発援助、緊急人道支援、アドボカシー（政府や市民への働きかけ）を行う国際NGOです